

調布市

【児童・生徒数】
16,065名

【学校数】
28校

【調布市の特色】

- ・東京スタジアムなど国際的な大会を開催する施設があり、地域と連携した事業が多い自治体である。
- ・2019年にはラグビーワールドカップ、2021年にはオリンピック・パラリンピック競技大会が本市のスポーツ施設にて開催された。



【課題・改善】

- 6月と12月の体力調査アンケートを比較した結果、授業以外でも運動やスポーツをもっとしたいと思う児童・生徒の割合について、小学校においては最大1.2ポイント下回った。
- 授業以外でも、主体的に運動に取り組もうとする態度の育成や運動習慣の定着に課題がある。
- 調布市の新たな体力向上の施策の中で、日常的に運動習慣の定着を図る取組を推進していく。

目標

- 運動やスポーツが大切であると感じている児童・生徒の割合
- 授業以外でも運動やスポーツをもっとしたいと思う児童・生徒の割合

【成果】

- ＜6月と12月に体力調査アンケート実施＞
- 運動やスポーツが大切であると感じている児童・生徒の割合は、小学校男子・中学校男子において、最大0.5ポイント上回った。
- 授業以外でも運動やスポーツをもっとしたいと思う児童・生徒の割合は、中学校男子が0.3ポイント上回った。
- 年度の始めと比べて、運動が必要であると感じている児童・生徒の割合は、小学校・中学校全ての学年で、肯定的回答が8割以上を占めた。

【実態・課題】

- 体力合計点を東京都と比較すると、中学校男子・女子、小学校男子は上回っている。
- 調布市における総合評価の分布は、東京都及び全国と同様の傾向にある。
- 体育の授業における、体力・運動能力向上の目標を立てている児童・生徒の割合は、東京都及び全国より低い傾向にある。
- 1日の中で、運動やスポーツをしている活動時間（授業以外）については、小学校・中学校共に、東京都及び全国と同様の傾向にあるが、平日の運動時間が低い傾向にある。

【取組】

- 多様な運動機会を創出するために、調布市の環境を生かした取組
- 授業（体育・保健体育科）における取組
 - ・ゆめおり陸上クラブ・FC東京・読売巨人軍と連携した授業を実施
- 運動機会の創出
 - ・小学生タグラグビー大会
 - ・小・中学生ジュニア陸上体験教室
- 教員の授業力向上研修
 - ・夏季2回の教員研修を実施
- 運動習慣の定着を図る取組
 - ・調布市体力向上検討委員会による体力向上に係る取組の検討

【取組（詳細）】

○ スポーツ関係機関との連携した授業の取組

- ◇ゆめおり陸上クラブによる出前授業
 - ・一流アスリートを指導者として、ハードル走、走り幅跳びなど各学校が希望する種目で出前授業を実施。
- ◇トップアスリートとの交流授業
 - ・運動・スポーツとの多様な関わりの一環として、FC東京・読売巨人軍のトップアスリートを招聘し、交流授業を実施。

○ 運動機会の創出を図る取組



- ◇ジュニア陸上体験教室
オリンピック等を招聘し、ジュニア陸上体験教室を実施。小学生は、東京オリンピック 110mハードル走の寺田明日香選手、中学生は元 10000m 走選手の高尾憲司氏から走り方の基礎・基本及びトレーニング方法の指導を受けた。
- ◇小学生タグラグビー大会
小学校4年生以上を対象に、調布市スポーツ振興課、調布市スポーツ協会、全日本ラグビー協会と連携した大会運営を実施。



○ 教員の指導力向上研修

- ◇ゆめおり陸上クラブ
トップアスリートによる短距離走、走り高跳び、ジャベリックスローの走・跳・投
- ◇調布市ラグビーフットボール協会
タグラグビーの指導方法と授業づくり



○ 調布市の体力向上施策の検討

- ◇調布市体力向上検討委員会では、小・中学校の体育・保健体育主任を対象に、体力テストの結果分析を行うとともに、新たな体力向上の施策や取組についての検討及び実施。

